

# しょくぶつえんきたいせき 植物園北遺跡の発掘調査

調査期間：令和2年 4月27日（月）～ 5月19日（火）

調査機関：京都市 文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課



## 1 発掘調査について

植物園北遺跡は、京都府立植物園の周囲に広がる周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）です（図1）。

今回、遺跡の東部において共同住宅の建設が計画されました。計画地の周辺では、これまでの調査で古墳時代初めから奈良時代ごろの竪穴建物が密集して確認されており、竪穴建物などの遺構が今回の計画地にも広がる可能性が高かったことから、発掘調査を実施することとなりました。

発掘調査は令和2年4月27日から5月19日まで、作業日の延べ日数は16日間で、約73㎡の広さで実施しました。

## 2 植物園北遺跡について

植物園北遺跡は、南北約1km、東西約2kmに及び京都盆地内で最大級の集落遺跡です。これまでの調査によって縄文時代から室町時代まで、幅広い時代の遺構・遺物が発見されています。

この遺跡が特に活発な時期は、古墳時代の初め頃と奈良時代から平安時代の前期にかけての頃です。古墳時代初め頃の遺跡としては、地下鉄北山駅の北側一帯と、今回の調査地周辺で多くの竪穴建物が見つかっています。

奈良時代から平安時代の前期にかけての時期には、地下鉄北山駅の南側一帯、コンサートホールや京都府立歴史彩館のあたりで、数多くの建物跡が見つかっています。また、上賀茂小学校の付近では、室町時代の上賀茂神社の社家町と考えられる建物などを確認しています。

このように、広い範囲で、幅広い時代にわたる遺跡が見つかっていることが植物園北遺跡の特徴です。

## 3 今回の発掘調査成果

今回の調査では、古墳時代から平安時代の遺構・遺物を確認できました。

古墳時代の遺構としては溝を確認しました。この溝は東隣の調査（図2-2007年発掘調査）で見ついている溝の続きと考えられますが、近隣で見ついているような竪穴建物は見つからず、この溝が古墳時代の集落の境界であった可能性があります。

飛鳥時代から奈良時代にかけての時期には、古墳時代と同じく東隣の調査区から連続する溝と、竪穴建物の可能性がある遺構を1基確認しました。出土遺物はわずかですが、周辺で見ついている竪穴建物の方位と合わせて検討すると奈良時代ごろの可能性がります。

今回の調査での最大の発見は、奈良時代から平安時代にかけての掘立柱建物です。建物の規模は東西4.5m、南北6.5mで、東西に柱が3つ（柱間2間）、南北に柱が4つ（柱間3間）並びます。柱の大きさは直径20cm前後、柱を据えるために掘った穴（掘方）は70～120cm程度と大きなもので、当時の役所などの施設に劣らない大きさです。

今回見つかった掘立柱建物は1棟ですが、同程度の柱掘方を持つ建物が西側のノートルダム学院構内で見つかり、さらに調査地の西側から北側に同じ時代の遺跡が広がる可能性もあります。植物園北遺跡内で、今回の調査地点付近に奈良時代から平安時代にかけて重要な施設が置かれていたのかもしれませんが。

今後、出土遺物の分析を通して、より細かな時期の絞り込み、建物の性格の特定を進めていきます。

（新田和央）

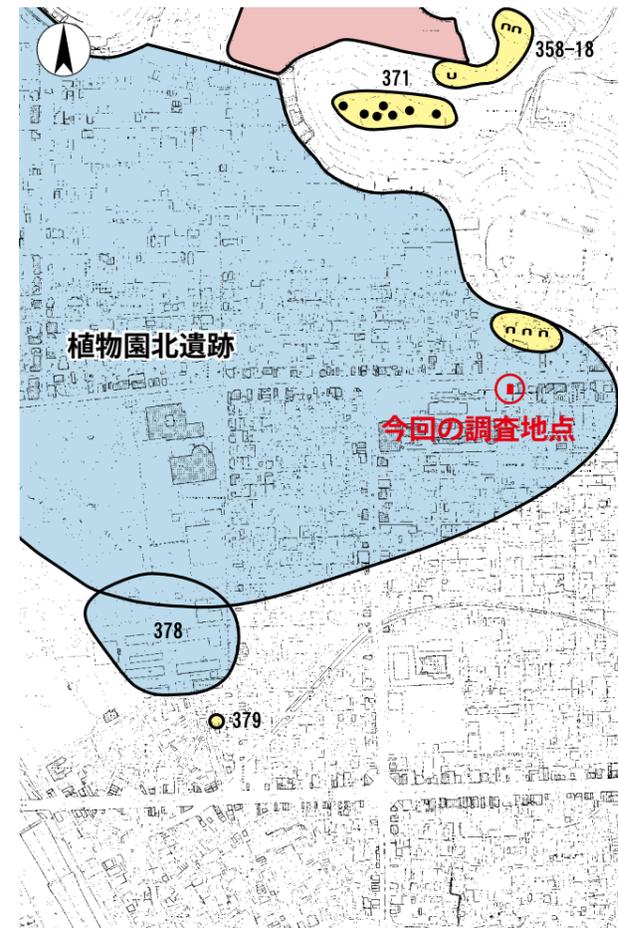


図1 遺跡位置図

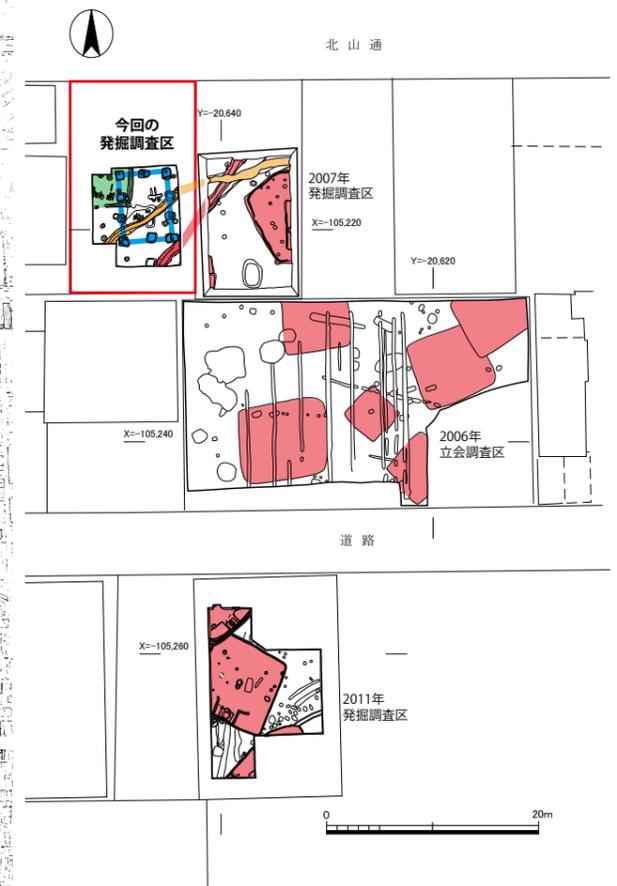


図2 周辺の発掘調査成果

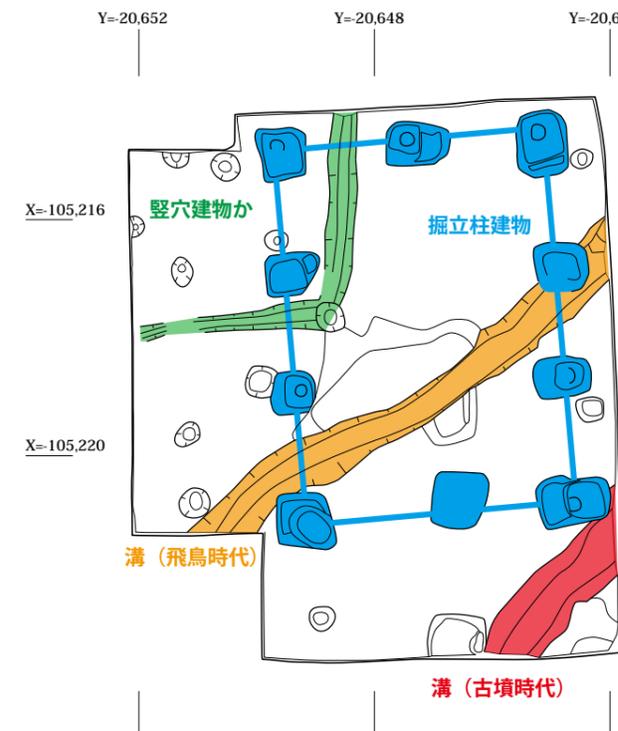


図3 遺構全体図



竪穴建物西側柱列